

2025
4.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部

〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

[NO.694]



幕張メッセで挙行された令和7年度入学式

<https://chibatech.jp/>

次代の希望となる 2,706人が集う 令和7年度入学式

新たな門出を祝うかのような春日和となった4月5日、令和7年度千葉工業大学入学式が幕張メッセ・イベントホール(千葉市美浜区)で行われました。

今年度の新入生は工学部6学科794人、創造工学部3学科 418人、先進工学部3学科389人、情報変革科学部3学科432人、未来変革科学部2学科233人と大学院440人(修士課程5研究科432人、博士後期課程3研究科8人)。総勢2,706人とその保護者がイベントホールの席を埋め、入学式に臨みました。

(関連記事 P2・3・4)

- P2 [令和7年度 入学式]伊藤学長式辞／瀬戸熊理事長祝辞／在学生代表歓迎の辞／新入生代表宣誓
- P3 [令和7年度 入学式]彬子女王殿下 記念講演／新しい知の空間「茶室」が誕生
- P4 [令和7年度 入学式]入学式スナップ／新入生インタビュー
- P5 青柳さんが精密工学会春季大会学術講演会で「企業賞(三鷹光器株式会社賞)」を受賞／長尾さんが2024 IEEE ロボティクスと生物模倣に関する国際会議で「最優秀論文賞」を受賞／情報処理学会で学生3名が「学生奨励賞」を受賞
- P6 三木さんが「優秀発表者賞」を受賞／宮本さんが「奨励賞 卒業研究賞」を受賞／村上さんが「奨励賞 修士論文賞」を受賞／梶浦さんが「学生優秀発表賞」を受賞
- P7 伊藤横一賞 記念茶会を開催 受賞学生10名が学長室で特別なひとときを共有／清水正晴主席研究員が「SI2024優秀講演賞」を受賞／子どもたちが科学に親しむ一日「千葉工大とサイエンスしょう」開催
- P8 椿寮で「ひな祭りイベント」を開催 女子寮生と新入寮生が交流／岩和田港まつりに「ロケット体験教室」を出展 御宿町との地域交流開催に大盛況／南房総市と連携し、公民館アプリを学生が開発 実証実験に向けて成果報告会を実施
- P9 [令和6年度 学位記授与式]2,443人が新たな門出を迎えた
- P10 [令和6年度 学位記授与式]学生表彰者／コラム

伊藤穰一 学長 | 式辞

大学というコミュニティで人間の芯を育んでほしい



時代は今、転換点を迎えています。IT技術の発展により社会は急速にデジタル化し、AIという新たなテクノロジーも登場しました。しかし、現状、日本はこれらの分野で出遅れています。それは自分たちが社会を変革していこうという志が弱まっているのが一因ではないでしょうか。千葉工業大学が創立されたのは1942年、第二次世界大戦が始まったばかりの頃でした。今では現存する私立の工科系大学としては日本で最も古い歴史があります。日本は戦争に負けた一方で、焼け野原からホンダやソニーのような世界を牽引する企業が生ま

れ、現代に続く平和な社会を築き上げてきました。しかし、長年の豊かさで「言われたことをしていれば大丈夫」という考え方が広がっているようにも思えます。復興を担った企業は「なにもない中で自分がどうがんばるか」という志で今の日本経済をつくりました。社会が大きく変わる現代において求められるのはこうした主体性です。熱心な先生方や意欲的な学生が集う本学には主体性や人間としての芯を育む環境があります。戦後の日本がそうであったように、困難な状況から新しい未来を切り拓いていく力が皆さんにはあると期待しています。

瀬戸熊修 理事長 | 祝辞

建学の精神を胸に次代のリーダーとなってほしい

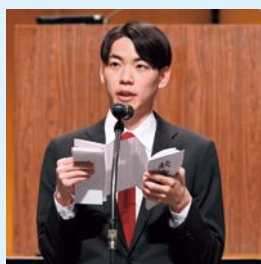


昨年から今年にかけては本学にとって特筆すべき年でした。まず工学部に宇宙・半導体工学科を新設。この学科は宇宙と半導体の両分野を融合させた全国で初めての学科です。ここにその第1期生となる117人の新生を迎え、創立83年の歴史に新たな1ページが加わりました。また、アリゾナ州立大学や国立成功大学と包括連携協定を結ぶほか、ブータン王国と技術革新と学術交流を促進するための覚書を締結するなど、国際的な教育・研究活動も活発化しています。こうした取り組みが評価され、本年度の入学志願者数が16万2,005人に達し、初の全国

1位となりました。この16万2,005人という志願者数は日本の大学における過去最多の数字で、実に36年ぶりに記録を塗り替えました。さらに前年度に対する志願者の増加数は1万9,360人で、これも全国1位となりました。皆さんにはこの厳しい関門を突破して入学したことに誇り持ち、世界文化に技術で貢献するという建学の精神を胸に学びを深めていってほしいと願っています。そして常に疑問を自らが解き明かしていく能動的な学習習慣を養ってほしい。千葉工業大学で次代を担うリーダーとして成長していくことを期待しています。

在学生代表歓迎の辞 | 新入生代表宣誓

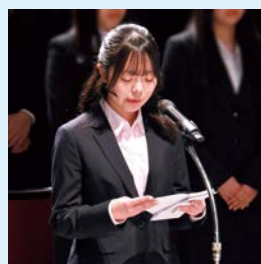
前進する勇気を持ってほしい



皆さんへ心理学者のユングの言葉を贈りたいと思います。“It all depends on how we look at things, and not how they are in themselves. (物事がどのようであるかではなく、それをどう見るかが全てを決定する)” 困難に直面したときこの言葉を思い出して一歩ずつでも前進する勇気を持ってほしいと思います。

在学生代表
牧野航大さん
プロジェクトマネジメント学科
4年

仲間と切磋琢磨して成長し続けたい



私たちは中高時代を新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態の中で過ごしました。マスク越しでの出会いを重ね制限された学校生活を送りながらも変化への適応力と多様な価値観への理解を深めてきました。これからは建学の精神を念頭に、同じ志を持つ仲間とともに成長し続けることを誓います。

新入生代表
佐藤心紅さん
生命科学科 1年

彬子女王殿下 | 記念講演

新入生の皆さんは日本の伝統文化を未来へつなぐ存在



現在、日本の伝統文化を未来へつなぐための団体「心游舎」を運営しています。きっかけのひとつはオックスフォード大学マートン・コレッジへの留学でした。印象深いのが学

世絵は基本的に折に触れて取り出して見るもの。西洋と日本では美術品に対する考え方が根本的に異なるのだと改めて日本文化に興味も持つ契機になりました。留学を終え

長のジェシカ・ローソン先生とのチュートリアルです。これは出されたお題についてエッセーを書き、先生と議論するというもの。そこで「そもそも浮世絵はどのように見るものなのか」と聞かれました。西洋では絵画は壁に飾る前提でつくられ、浮

てから京都で活動されている作家の方や職人の方とお話する機会が増え、そこで皆さんが口をそろえられるのが「このままでは日本の伝統文化は残らない」という切実な思いでした。文化は需要と供給で成り立っており、生活の中に取り入れられなければ過去の遺物になってしまいます。そこで生まれたのが心游舎です。子どもたちが日本文化に触れ、その良さを感じられるよう神社やお寺でワークショップを開催しています。

仏教では教えを伝えることを伝灯といいます。本日、皆さんの心の中に伝統文化の火が灯ったことを願っております。

伝統と創造を結ぶ「青灯亭」 学生の声がかたちに 新しい知の空間「茶室」が誕生

津田沼キャンパス2号館20階に茶室「青灯亭」が完成し、4月5日、開室を記念した「茶室披き」の式典が執り行われました。

当日は、本学の入学式にて新入生に特別講演を賜った彬子女王殿下が、式典後に津田沼キャンパスをご訪問。瀬戸熊修理事長、地球学研究センターの大村幸弘副所長、設計者である建築家・三井嶺氏らとともに、伊藤穰一学長によるお点前にご臨席くださいました。伝統文化と先進技術が融合する本学らしい空間の誕生を祝う、格調高いひとときとなりました。

茶室には、彬子女王殿下よりご下賜いただいた室名「青灯亭」の扁額が掲げられています。「青灯」とは、青い布や紙が張ってある読書用の灯火のことで、お茶室が伝統の灯を伝える場所でもあり、学問をする人々たちを明るく照らす灯ともなっていてほしいという思いが込められています。

彬子女王殿下にお書きいただいた書の筆法は、「とめ」や「はね」を控えた柔らかな印象が特徴です。その宮家の女性らしい伸びやかな書の雰囲気

をそのまま表現するため、本扁額の木材には軽やかで繊細な桐を用い、顔料には白色が選ばれています。これにより、書の持つ美しさを損なわず、淡く浮かび上がるような立体感が生まれています。

設計は、大阪府・水無瀬神宮に現存する宮家ゆかりの茶室「灯心亭」を本歌に、建築家・三井嶺氏が担当。現代的なキャンパス空間から、寄付、内坪、茶室へと進むにつれて、しだいに古典的な様式へと移行する設計となっており、訪れる人が自然と心を整え、茶の湯の精神に触れることがで



きる構成です。

茶道部は、これまで仮設の茶室などを活用しながら稽古を重ね、30数年前から度々茶室の設置を大学へ要望していました。このたび完成した「青灯亭」は、こうした長年の思いが実を結んだかたちとなりました。

今後は、茶道部による活動の場としての活用はもちろんのこと、国際交流、教職員と学生の対話の空間としても利用される予定です。伝統の先の新しさ、変革を掲げる本学の新たな知の拠点となることが期待されます。

Chiba Techへようこそ!

入学式スナッパ



新入生を迎え入れる桜に彩られた新習志野キャンパス



ワクワクと期待感で記念撮影



吹奏楽部による歓迎の演奏



記念のイニシャルボード前で



一緒に楽しもう! サークル勧誘の一コマ



サークル博でクラブ・サークルの紹介

新入生インタビュー | Chiba Techでどんなことをしたいですか?

応用化学科
藤原 彩夏 さん

化学の中でも特に実験が好きなので充実した設備で実験ができるのが楽しみです。サークルも手芸やフォークダンスなどおもしろそうなものがいくつもあって迷います。これからたくさんの友人と思いつくをつくりたいです。

建築学科
佐久間 俊介 さん

まちづくり関連の仕事をしている父に連れられ、有名な建築物などを見てまわったのが志望動機につながりました。建築学科では構造や意匠だけでなく環境についても学びたい。将来は地図に残る仕事をしたいです。

生命科学科
伊落 拓人 さん

千葉工業大学出身の高校の担任の先生が「チャレンジしてみないか?」と背中を押してくれました。幼い頃から生物図鑑が大好きでしたし、将来は製薬の仕事がしたいので、これから本格的に学ぶことがうれしいです。

認知情報科学科
舘脇 右京 さん

コミュニケーションに苦手意識があったので、情報系の知識の他にグループワークなどの対人的なカリキュラムや心理学を学べる学科を選びました。サークルやアルバイトなど新しいことに積極的にチャレンジしたいです。

デジタル変革科学科
伊藤 柑那 さん

中学高校時代に経験した学級委員の仕事がとてもおもしろく、自分にも合っていると思い、リーダーを育成するこの学科に進むことに。海外留学やサークル活動など、今しかできない体験をたくさんしてみたいです。

青柳さんが精密工学会春季大会学術講演会で 「企業賞(三鷹光器株式会社賞)」を受賞

機械工学専攻修士課程1年(受賞当時)の青柳明日華さん(瀧野日出雄研究室)が、3月17日に本学津田沼キャンパスで開催された2025年度精密工学会春季大会学術講演会にて、「企業賞(三鷹光器株式会社賞)」を受賞しました。

受賞対象となった研究は、「小径フライスによるゴム材料表面へのサブミリメートル溝加工」に関する発表で、ゴム表面に高精度の微細形状を創成するため、切削工具の形状や切削条件の最適化と切削メカニズムの解明を目指しています。今回の発表では、工具形状と切削条件を変

化させ、加工面状態への影響や誤差要因の調査を行った結果を報告し、発表が優秀であると評価されました。実験では装置に不具合が生じ、思うような結果が得られない時期もありましたが、粘り強く問題解決に取り組むことで、成果を上げることができました。

青柳さんは「今回の受賞を素直にうれしく思います。ご指導いただいた瀧野教授やアイデアを交わし合った研究室の仲間に感謝しています。今後も研究目的達成のために、より一層精進していきたいです」と話しています。



長尾さんが2024 IEEE ロボティクスと生物模倣に関する 国際会議で「最優秀論文賞」を受賞

未来ロボティクス専攻修士課程の長尾 峻 輔さん(王志東研究室・2024年3月修了)が、2024年12月にタイ・バンコクで開催された「2024 IEEE ロボティクスと生物模倣に関する国際会議」において、採択された399編の中から「最優秀論文賞(Best Conference Paper Award)」を受賞しました。論文題目は「An Algorithm on Checking 3-Finger Object Caging in 3D by Using Dual CC-Closure Region Concept」。

近年、日常生活環境における多様な物体の把持と操作を可能にするロボティクス技術の研究が進められており、不確実な状況でも安定した把持を

実現する手法として「ケーシング」が注目されています。本研究では、2次元の平面非包囲型ケーシングに有効なDual CC-Closure Regionの概念を3次元へと拡張し、3本指による包囲ケーシングの判定アルゴリズムと統合することで、多様な物体に対応可能な効率的ケーシング判定アルゴリズムを構築しました。

長尾さんは「在学中の研究成果と努力が評価されたことを誇りに思います。ケーシングテーマで研究している代田先輩の素晴らしい成果から進んで実現したものとなり、在学中での先輩や先生の指導に感謝いたします」と喜びを語っています。



情報処理学会で学生3名が「学生奨励賞」を受賞

3月13日に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された「情報処理学会第87回全国大会」において未来ロボティクス学科4年・河端徹思さん(大川茂樹研究室)、知能メディア工学科4年・増山誠人さん(今野将研究室)、プロジェクトマネジメント学科4年・野本礼恩さん(田隈広紀研究室)(いずれも学科学年は受賞時)の3名が「学生奨励賞」を受賞しました。

河端さんは、「物体検出における絵画を用いた画風変換によるデータ拡張」をテーマに、ディープラーニングにおける学習用画像の拡張手法に新たなアプローチを提案。特に、現実の写真ではなく印象派風の絵画をスタイル画像に用いることで、物体の特徴抽出能力の向上と検出精度の改善を実証しました。また、データ拡張やドメイン適応の発展が見込まれるような研究として評価されました。「研究を進めるにあたり指導いただいた大川教授と研究室のメンバーに感謝しています」と話しています。

増山さんは、「画像認識を用いた空書き文字認識システムの開発」と題して発表し、本研究では、人差し指で空中に文字を描いた軌跡を記録し、こ

れを画像データ化してCNNによる文字分類を行う手法を構築。従来は手袋型デバイスが必要とされていた点を装置レスで実現し、さらに漢字認識まで対応させることで拡張性を高めました。白線描画による前処理技術や画像の自動トリミング・標準化により、認識精度と学習効率を両立させた点も評価されました。「外部で発表を行うのは初めてで非常に緊張しました。自分の研究内容が評価され、非常に嬉しい」と話しています。

野本さんは、「逐次参照的ソースコード生成を用

いたソフトウェア自動作成手法の提案」として発表し、大規模言語モデルによるソースコード生成を用いて複雑なソフトウェアの自動作成を実現するため、要件の詳細化とソースコードの分割生成に着目した手法の提案を行いました。LLMの推論の精度や整合性を高め、複雑なソフトウェア設計への実用的な応用可能性が示されました。社会的意義の高さとプレゼンテーションの明瞭さが評価されました。「卒論終了後に思い付きから着手した研究でしたが、このような評価を頂き光栄です」と話しています。



河端 徹思 さん

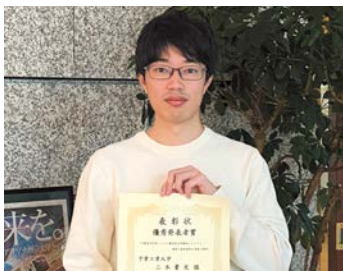


増山 誠人 さん



野本 礼恩 さん

三木さんが 「優秀発表者賞」を受賞

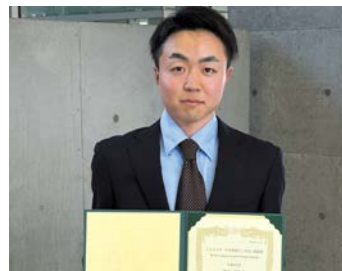


生命科学科4年の三木貴文さん(五明美智男研究室・受賞当時)が、3月1日に群馬工業高等専門学校で開催された「第52回土木学会関東支部技術研究発表会」で「優秀発表者賞(第II部門)」を受賞しました。

論文題目は「千葉県市町村レベルの潜在的分布傾向にもとづく重要な海岸植物生育場の探索」。海と陸の境界部に特有に生育する海岸植物は、生育環境が限られており、開発などにより失われやすいという課題を抱えています。従来より保全の取り組みは進められてきましたが、より効果的な施策を講じるためには、分布状況をより細かな行政単位、すなわち市町村レベルで把握することが重要です。本研究では千葉県内を対象に文献調査と現地調査を組み合わせ、市町村ごとの分布種やその生態的特性を整理。その結果、種数が豊富な市町村や、分布が限られる希少種が多く確認された市町村を重要な生育場として抽出することに成功しました。

三木さんは「初めての学会発表で受賞でき光栄です。今後も研究に励み、社会に貢献できる成果を目指したい」と話しています。

宮本さんが 「奨励賞 卒業研究賞」を受賞



建築学科4年の宮本莉久さん(石原沙織研究室・受賞当時)が、3月12日、一般社団法人日本建築仕上学会より「奨励賞 卒業研究賞」を受賞しました。

本研究のテーマは「屋上防水の立上り保護モルタルの浮きの改善に向けた検討」。屋上の立上り部において防水層をモルタルで保護する工法では、モルタルの浮きなどの不具合が発生する事例が報告されています。これらの浮きは、モルタルが乾燥収縮により反ることが主な要因と考えられています。そこで本研究では、モルタルの乾燥収縮特性や凝結・硬化に関する基礎データを取得するとともに、実際の施工を模した試験体を用いて反り量、反りに伴う荷重、ひずみの測定を行い、浮きの抑制に向けた改善策の検討を行いました。現場での品質向上に寄与する内容として高く評価されました。

宮本さんは「ご指導してくださった石原先生、苦楽を共にした研究室のメンバー、本学の工作センターの方々、日本建築学会のWGの委員の皆さまなど、たくさんの方々に支えられ、この賞を受賞することが出来ました。心より感謝申し上げます」と喜びを語っています。

村上さんが 「奨励賞 修士論文賞」を受賞



建築学専攻修士課程2年の村上晴香さん(石原沙織研究室・受賞当時)が、3月19日、一般社団法人日本建築仕上学会より「奨励賞 修士論文賞」を受賞しました。研究テーマは「接着・密着工法の屋上防水層における接着力の面的な把握と耐風性評価に向けた接着力試験の治具寸法の検討」。

本研究は、気象が激甚化する昨今において、接着・密着工法の屋上防水層の風に対する被害を軽減すべく、その耐風性の評価試験方法の検討を行ったものです。これまでは特に検討されることなく、従来から行われてきた慣例的な方法で試験を行ってきましたが、本研究は複数種の工法の接着力を連続した面的に明らかにし、その接着特性に応じた評価試験方法の提案を行いました。接着強度のばらつきを考慮した新たな評価手法の提案が、より信頼性の高い防水層性能評価へつなげる点が高く評価されました。

村上さんは「修士生活のまとめである本論文において同賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。石原先生のご指導と研究室の仲間たちのサポートにより実現できたものであり、皆さまに心より感謝します」と話しています。

梶浦さんが 「学生優秀発表賞」を受賞



知能メディア工学専攻修士課程1年の梶浦一真さん(竹本浩典研究室・受賞当時)が、3月18日に埼玉大学で開催された日本音響学会2025年春季研究発表会で「学生優秀発表賞」を受賞しました。

本研究では、音声信号から舌や咽頭といった調音器官の位置や形状(調音状態)を推定する「音声-調音マッピング」において、同一の調音状態から得られる音声は一意である一方で、同一の音声から推定される調音状態は必ずしも一意ではない可能性が指摘されており、推定を困難にしている点に着目しました。そこで、日本語の5母音を対象に、リアルタイムMRIによって取得された舌の輪郭データと音声データを、クラスタリングを用いて定量的に分析し、この逆問題における非一意性の実態を検討した結果、多くの場合で同一の音声に対して複数の異なる調音状態が対応する非一意性が確認されました。

梶浦さんは「学部時代から取り組んできた研究が評価され光栄です。ご指導くださった先生方や協力いただいた皆さまに深く感謝しています。この受賞は就職活動の励みにもなり、これまでの努力が形になったことを嬉しく思います」と話しています。

伊藤穰一賞 記念茶会を開催 受賞学生10名が学長室で特別なひとときを共有

今年度より新たに創設された「伊藤穰一賞」。学業だけでなく、主体的に課外活動に取り組む学生を表彰するこの賞は、1月に開催された祝勝奨励会の場において37名が受賞し、その中から選ばれた10名が、3月6日、伊藤学長主催の茶会に招かれました。

当日、学生たちは緊張の面持ちで学長室に集合。茶会は変革センターの清川ゆかこ研究員の進行のもと、伊藤学長からの挨拶に始まり、学生

一人ひとりによる自己紹介や活動紹介が行われ、温かな雰囲気の中で交流が深まりました。

この日のために特別に用意された主菓子は、「夢見桜」と銘されたもの。老舗和菓子店「巖邑堂」の協力を仰ぎ、学長賞の意図を伝えた上で特別に**あつら**えていただいた逸品です。

「個性ある将来の芽が芽吹き、やがて桜のように華やかに世を楽しませる存在となるように」という願いが込められ、学生たちは、お点前とともに供さ

れたこの特別なお菓子をゆっくりと味わいながら、普段なかなか交流する機会のない他学科・他学年の仲間と語り、学長とも直に思いを交わすひとときを過ごしました。

参加者からは、「最初は緊張しましたが、学長や他の学生の方々と直接お話しできる貴重な機会となりました。参加できて本当に良かったです」といった感想が寄せられました。



【学生参加者一覧（所属団体・学科）】

鈴木 慧(体育会会長・情報ネットワーク学科4年)／鈴木 蒼太(文化会会長・先端材料工学科4年)／柏木 勇輝(精密ロボット工学研究会・未来ロボティクス学科4年)／高橋 理子(学友会・都市環境工学科3年)／飯倉 菜那(よさこいソーラン風神・デザイン科学科3年)／増山 創(TRPG研究会・経営情報科学科3年)／人見 慎太郎(自動車部・機械工学科2年)／向井 瑛志(学生寮・デザイン科学科2年)／一条 英花(アカペラサークル・機械電子創成工学科1年)／河野 隼之介(吹奏楽部・認知情報科学科1年)

清水正晴主席研究員が「SI2024優秀講演賞」を受賞 ロボットの高性能化に資するモータドライバ制御技術が高評価

未来ロボット技術研究センターの清水正晴副所長・主席研究員が、2月17日、計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会において「SI2024優秀講演賞」を受賞しました。

清水研究員は、小型・高出力・低遅延のモータドライバ「FTMD-next」の開発に取り組み、今回はその制御に用いる国際標準通信規格EtherCATのメインソフトウェアに関する成果を発表。Linuxのオープンソースソフトウェアを活用することで、リアルタイムかつ1ミリ秒以下の周期通信を実現する新たな手法を提案。250マイクロ秒という極めて短い周期

での通信が可能であることを示しました。本研究成果は、誰もが無償で入手できるオープンソースソフトウェアと国際標準規格を活用しているため、ロボットの運動制御システム構築を検討する開発者やユーザーにとって非常に有用です。

1時間半にわたるポスターセッション形式での発表中、来場者が途切れず熱心な質疑応答が続いたとのこと。清水研究員は「多くの方に講演を聞いていただき、本手法への関心の高さを実感しました。今後の研究にも大きな励みとなりました」と受賞の喜びを語っています。



子どもたちが科学に親しむ一日「千葉工大とサイエンスしよう」開催

3月20日、新習志野公民館にて、本学と同公民館協働の「千葉工大とサイエンスしよう」が開催されました。ロボット操縦体験や自然素材を使ったアロマキャンドルづくり、光の不思議を探るサイエンス講座、鋳造体験、人エイクラを作ろう!さらには「オセロ名人に挑戦!」といった多彩なプログラムが展開され、子どもから大人まで約100名の来場者でにぎわいました。

毎年人気の総合工学研究会による「ロボット操縦体験」は、予約制のため開始早々に整理券が配布終了。子どもたちはコントローラーを手に夢中でロボット操作に奮闘していました。

また、光をテーマとしたサイエンス講座では、先生や学生たちによるわかりやすい解説に、保護者の

方々も真剣に耳を傾けており、家庭でも話題が広がるような学びの時間となりました。他にも準備された「ものづくり」体験では、五感を使って科学に触れる楽しさを実感する姿が多く見られました。

入試広報スタッフによる「チバニーキャンドルづくり」では、小さなお子さんから保護者まで、大学公式キャラクターのチバニーをモチーフにしたキャンドルづくりに挑戦し、会場は終始笑顔に包まれました。



ロボット操縦体験



光の万華鏡を作る

本イベントは、地域の方々に大学の教育・研究活動を身近に感じてもらうというのがねらい。未来の科学者や技術者の芽を育む交流の場になればと期待しています。

椿寮で「ひな祭りイベント」を開催 女子寮生と新入寮生が交流



3月28日(金)、新習志野キャンパスの椿寮において、学生委員会主催による「ひな祭りイベント」が開催されました。当日は在寮中の女子寮生に加え、3月26日・27日に入寮したばかりの新入寮生や留学生を含めた約40名が参加し、春の訪れを感じる温かなひとときを過ごしました。

染谷明人常務理事と安藤雅和学生委員会委員長(デジタル変革科学科・教授)よりあいさつがあり、続いて女子寮長の高安真由さん(応用化学科3年)より開催にあたっての御礼の言葉が

述べられました。会場ではケーキやコーヒーマ、紅茶などが振る舞われ、参加者は和やかな雰囲気の中で歓談を楽しみ、初対面同士の交流も自然と生まれていました。

また、閉会時には寮友会担当の南澤磨優寛准教授(教育センター)より女子寮生の今後の活躍への期待が述べられ、励ましの言葉で会は締めくくられました。なお、当日参加できなかった寮生にもケーキが配られ、全員がひな祭りの雰囲気を楽しめるよう配慮されました。

岩和田港まつりに「ロケット体験教室」を出展 御宿町との地域交流開催に大盛況

機械電子創成工学科の和田豊教授の研究チームは、去る3月15日、御宿町で開催された「第8回 岩和田港まつり」に出展し、ロケット体験教室とC1ロケットのモックアップ展示を行いました。岩和田港まつりは、地元の方々による地域おこしを目的としたイベントで、今回は新型コロナウイルスの影響を受け、実に6年ぶりの開催となりました。当日は天候にも恵まれ、会場となった岩和田港周辺は多くの来場者でにぎわいを見せました。

イベントでは地元の特産物を扱う出店やバーベキュー、伊勢えびつかみ取り、伊勢えび汁の無料配布、乗船体験、フラダンス、よさこいソーランなど、多彩な催しが展開され、伊勢えび汁のブースには長蛇の列ができていました。本学のブースでは、ポスター掲示とともに、来場した子

どもたちを対象にフィルムケースを用いた圧縮空気ロケットの体験教室を実施しました。多くの家族連れが訪れ、用意した300個のフィルムケースはすべてなくなるほどの盛況ぶり。来場者にとって、科学や宇宙技術に親しむ貴重な機会となったようです。



今回の出展は、日頃から燃焼実験や打ち上げ実験でお世話になっている御宿町との地域連携をさらに深める機会となり、今後の交流や研究活動の発展が期待されます。



南房総市と連携し、公民館アプリを学生が開発 実証実験に向けて成果報告会を実施



南房総市と連携して開発に取り組んでいる「公民館講座抽選システムアプリ」の成果報告会が、去る2月27日、同市の丸山公民館で開催されました。市職員や生涯学習推進員の方々に、今年度の進捗や改良内容について説明

し、実際の操作体験も行いました。

本学と南房総市は、2017年より包括的連携協定を締結しており、地域課題の解決を目指したアプリやシステムの開発に継続的に取り組んでいます。これまでに、徘徊高齢者の発見を支援するアプリや、公民館施設の利活用を促進するアプリなどを開発。今回開発されたアプリは、公民館講座への申し込み受付から、希望者が定員を超えた際の自動抽選までを一括して行うことができるシステムで、市民の利便性向上に加え、職員による抽選業務の省力化や公平性の確保も期待されています。

昨年度に試作された初期版を引き継ぐ形で、佐久間恒洋さん(情報3)、川口真奈さん(電電2)、

大浦空さん(情通2)、諸藤淳子さん(ロボ1)の4名が中心となって改良を進めました。利用者の立場に応じて「管理用」「講師用」「利用者用」の3種類のアプリに分けて機能を最適化し、完成度を高めています。

報告会では、指導教員である高度応用情報科学の中川泰宏助教が開発の経緯を報告した後、学生たちがシステムの概要と操作方法について説明しました。参加者はスマートフォンにアプリを実際にインストールし、申し込みから抽選までの流れを体験し、市の関係者からは「完成度が高く、公平性の確保にもつながる素晴らしい取り組み」との声が寄せられ、今後の実用化に向け期待が高まっています。



令和6年度 学位記授与式

令和6年度の学位記授与式が3月22日、幕張メッセ・イベントホールで行われました。

今年、新たな門出を迎えたのは、学士2,058人、修士375人、博士10人の計2,443人（内1,554人の卒業生にNFTによる電子の英文学位記を発行しました）。

式典当日は春らしい穏やかな天候に恵まれ、多くの卒業生・修了生とご家族が参列し、厳粛かつ華やかな雰囲気の中で挙行されました。

学部卒業生5学部を代表して太田昌輝さん（生命科学科）、大学院博士前期課程・修士課程5研究科を代表して松本唯吹さん（情報科学

研究科情報科学専攻）、博士課程工学研究科、社会システム科学研究科を代表して岡本陸さん（工学研究科）が登壇し、それぞれ学位記を授与されました。

続いて学生表彰が行われ、在学中の学園活動で特に顕著な功績を挙げた理事長賞に林和輝さん（知能メディア工学科）、また、特に成績が優秀な学生に贈られる学長賞に織田恵子さん（経営情報科学科）が選ばれました。ほかにも優秀賞、PPA会長賞、同窓会会長賞、千葉県知事賞、千葉市大学市長賞として計21人が表彰されました。

伊藤穰一学長による式辞では、「大学で学んだ

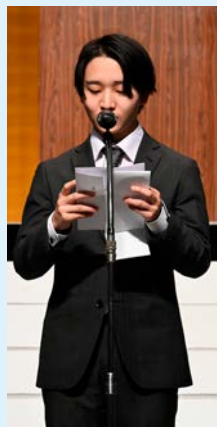
技術や知識を社会にどう活かしていくかを常に問い、挑戦し続けてほしい」と卒業生にエールが送られました。

また、瀬戸熊修理事長からは、「本学で培われた変革を恐れず常に挑戦する精神を忘れず社会に貢献してほしい」と卒業生への期待が込められた祝辞が述べられました。

在学生代表の森戸憲心さん（プロジェクトマネジメント学科3年）が送辞を、卒業生代表の杉政慶太さん（機電）が答辞を述べ、感謝と決意を込めた力強い言葉で式典を締めくくりました。



卒業生代表として
答辞を述べる
杉政慶太さん



在学生代表として
送辞を述べる
森戸憲心さん



令和6年度 学生表彰者



理事長賞

林 和輝さん | 知能メディア工学科

正直、理事長賞なんて!と驚きです。2年の時から高度技術者育成プログラムに参加し、小型衛星の開発に没頭。同プロジェクトでは、特にマーケティングの部分が大学生活の中で一番大きな経験になりました。当時の様々な経験を活かして、今後後の活動にも役立てて行けたらと思います。

千葉県知事賞も受賞

林さんは、高度技術者育成プログラムの一環として、超小型衛星「SAKURA」の開発プロジェクトにおいて、プロジェクトマネージャーを務めました。JAXAへの引き渡し、スペースX社のロケットでISSへ、宇宙空間へ放出された「SAKURA」は撮影画像の地上復元にも成功しました。林さんは、衛星の運用管理や画像解析に関わる作業の効率化などを主導し、ミッションの成功に大きく貢献しました。



学長賞

織田 恵子さん | 経営情報科学科

経営情報科学科のJABEEコースとして同学科の授業だけでなく、PM学科の授業も一緒に幅広く興味をもって勉強することができ、それが認められとてもうれしかったです。研究室の活動でも、先輩、同期、先生方、いろいろな人に支えられ、知識を深められたことが大学生活で楽しかったことです。

表彰者一覧



理事長賞

林 和輝 【知能】

学長賞

織田 恵子 【経情】

優秀賞

川西 ひかる 【機械】	杉政 慶太 【機電】	田中 緑 【材料】
酒井 博隆 【電電】	江澤 烈生 【通信】	黒岩 和真 【応化】
鎌田 実里 【建築】	田中 拳正 【都市】	平良 純美 【デ科】
武田 陸歩 【未口】	太田 昌輝 【生命】	豊田 集士 【知能】
田名網 真夢 【情報】	Jean Paul Pierret Robles 【NS】	
河野 綺莉 【PM】	實川 智咲 【金融】	

同窓会会長賞

梶田 優 【建築】

PPA会長賞

鈴木 蒼太 【材料】

千葉県の依頼による「千葉県知事賞」受賞者

千葉県知事賞

林 和輝 【知能】

千葉市の依頼による「千葉市大学市長賞」受賞者

千葉市大学市長賞

若林 大輔 【デ科】

【機械】機械工学科／【機電】機械電子創成工学科／【材料】先端材料工学科／【電電】電気電子工学科／【通信】情報通信システム工学科／【応化】応用化学科／【建築】建築学科／【都市】都市環境工学科／【デ科】デザイン科学科／【未口】未来ロボティクス学科／【生命】生命科学科／【知能】知能メディア工学科／【情報】情報工学科／【NS】情報ネットワーク学科／【経情】経営情報科学科／【PM】プロジェクトマネジメント学科／【金融】金融・経営リスク科学科

PPA



「いろいろな経験を大学で」

親の立場になってからそう感じています。社会に出ると様々な摩擦や人間関係が生じてきます。その時に1回経験しているのと未経験では対処法や心のあり方等で大きな差がでます。

「初めての事は失敗が当たり前」

怖がっていたらいつまでたっても未経験者です。

大学生はまさに「プレ社会人」

友人関係、部活動、研究室、バイト先今の皆さんには多くのチャンスがあります。話して、喧嘩して、仲直りしたり、別れたり、また仲良くなったり。面倒だと思わずに、この時期を逃さずに新しい世界へ挑戦して欲しいと思います。

末尾になりますが、瀬戸熊理事長をはじめ多くの方にお力を頂き、力不足でありましたがなんとか1年の任期を締めくくる事が出来そうです。ありがとうございました。

PPA会長 橋本 淳

四季雑感



私ごとになりますが、入職してから17年間入試広報部に在籍しておりましたが、4月にはじめて異動を経験することになりました。新たな部署は、教学センター(津田沼学生担当)です。

今までは、主に高校生が対象となり、オープンキャンパスや入学者選抜を行ってきましたが、今度からは本学学生が対象となります。4月からのイベントの多さに驚き、改めて本学の学生のパワーを感じたところです。

まずは、新入生歓迎祭があり、希望者に対して新入生歓迎企画(パスハイク)。ゴールデンウィーク明けには、文化の祭典と春の行事が盛りだくさんです。

そして、伝統のある成田山詣り脚や津田沼祭など年間を通じて学生のがんばりをサポートすることが出来ます。

学生と一緒に大学を盛り上げていきたいと思っています。

教学センター(津田沼学生担当) 高松 佑輔

編集だより



春は、新しい出発の季節。本学にも、この春、多くの新入生が入学しました。キャンパスに、フレッシュな空気が満ちていくこの季節。何かが始まるときのざわめきは、毎年のことながら、やはり特別に感じます。

私ごとですが、今年3月に娘が高校を卒業し、大学に進学しました。これから楽しいこといっぱい、うらやましい限りと思っていた矢先、高校時代の友だちとの会話で「いや〜JK最高だった…。やっぱりJKって最強だったなあ〜」と、すでに懐かしんでいる様子。制服で駆け抜けた日々、毎日会える友だち、文化祭や体育祭、何気ない帰り道。娘にとって高校生活はまさに「最強」の青春だったのでしょう。

大学では知識を深め、誰かの言葉に共鳴し、自分の声も少しずつ社会に響かせていく—JK時代が最強なら、大学時代は自分の“響き”を育てていく「最響」の時間を過ごして欲しい。

新入生の皆様、ご入学、おめでとうございます。皆さんにとっても、素敵な4年間になりますよう。

入試広報部 大橋 慶子